

# Asia Indicators

発表日: 2024年2月22日(木)

## ニュージーランドの輸出に底打ちの兆し(Asia Weekly(2/19~2/22))

～乳製品や木製品、果物など主力の輸出財を中心に堅調な動きがみられる展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

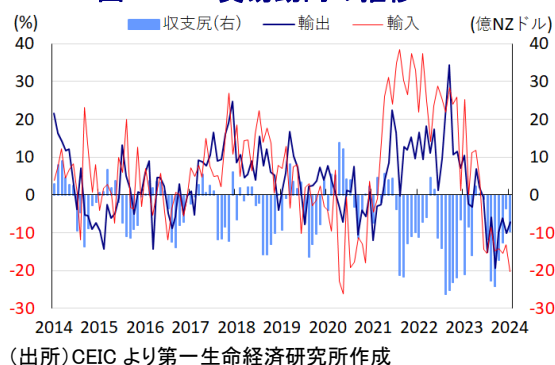
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
2/19(月)	(タイ)10-12月実質 GDP(前年比)	+1.7%	+2.5%	+1.3%
2/20(火)	(マレーシア)1月輸出(前年比)	+8.7%	+3.0%	▲10.1%
	1月輸入(前年比)	+18.8%	+8.0%	+2.9%
	(香港)1月失業率(季調済)	2.9%	--	2.9%
2/21(水)	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	6.00%	6.00%	6.00%
2/22(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(ニュージーランド)1月輸出(億NZドル)	49.3	--	58.5
	1月輸入(億NZドル)	59.1	--	62.2
	(香港)1月消費者物価(前年比)	+1.7%	--	+2.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【ニュージーランド】～輸出に底打ちの兆しの一方、輸入は一段と頭打ちを強めるなど対照的な動きが続く～

22日に発表された1月の輸出額は前年同月比▲7.1%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲10.0%)からマイナス幅は縮小している。前月比は+4.1%と前月(同▲5.0%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きが続いているものの、中期的な基調は拡大傾向に転じるなど底打ちしている様子が見えてくる。財別では、主力の輸出財である食肉関連の輸出は頭打ちしているものの、乳製品関連の輸出は底入れの動きを強めているほか、木製品や果物などの輸出の堅調さが輸出全体を押し上げている。国・地域別でも、隣国の豪州向けは弱含む動きをみせているほか、日本向けやASEAN向けなども下振れする動きがみられる一方、中国向けの底堅さが輸出全体を支えている。一方の輸入額は前年同月比▲20.2%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移している上、前月(同▲13.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲4.0%と前月(同▲5.3%)から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど、底打ちの動きをみせる輸出と対照的に頭打ちの動きが続いている。国際原油価格の調整の動きを反映して原油の輸入額に大きく下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、機械製品関連の輸入も下振れするなど幅広い分野で輸入が減少傾向を強めている様子が見えてくる。結果、貿易収支は▲9.76億NZドルと前月(▲3.68億NZドル)から赤字幅が拡大している。

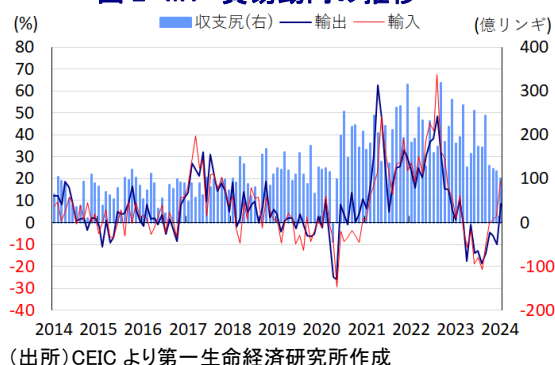
図1 NZ 貿易動向の推移



### [マレーシア]～製造業や農産品関連を中心に輸出は底入れするなか、輸入も同様に底入れの動きを強める～

20日に発表された1月の輸出額は前年同月比+8.7%となり、前月(同▲10.1%)から11ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+16.0%と前月(同▲9.7%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子が見えてくる。天然ガスをはじめとする鉱物資源関連の輸出は市況調整の動きを反映して弱含みしている一方、電気機械関連をはじめとする製造業関連の輸出は堅調な推移をみせているほか、パーム油をはじめとする農業関連の生産の好調さが輸出全体を押し上げている。国・地域別では、中国向けは力強さを欠く推移が続いているほか、ASEANなど周辺国向けも勢いの乏しい状況にある一方、日本や米国、EUなど先進国向けの堅調さが輸出全体を押し上げる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+18.8%となり、前月(同+2.9%)から伸びが加速している。前月比も+9.4%と前月(同▲2.6%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが確認されている。輸出の堅調さを反映して資本財関連や中間財関連を中心に堅調な動きが確認されているほか、消費財関連の輸入にも底堅さがうかがえるなど幅広く底入れの動きが進んでいる。結果、貿易収支は+101.24億リンギと前月(+117.49億リンギ)から黒字幅が縮小している。

図2 MY 貿易動向の推移



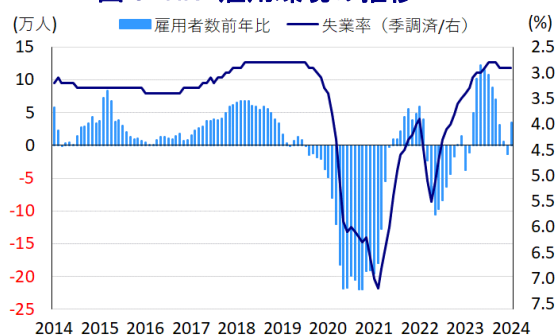
### [香港]～雇用者数は底入れするとともに、労働市場への参加意欲も改善するなど雇用を取り巻く環境は改善～

20日に発表された1月の失業率(季調済)は2.9%となり、前月(2.9%)から4ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比▲1.6万人と2年半に亘ってマイナスで推移しているものの、前月(同▲2.2万人)からマイナス幅は縮小するなど底打ちの動きが出ている。一方の雇用者数は前年同

月比+3.5万人と前月（同▲1.3万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、サービス業や建設業などを中心に雇用底入れの動きが強まっていることが影響している。また、労働力人口も前年同月比+1.9万人と前月（同▲3.5万人）から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど労働市場に回帰する動きが確認されている上、不完全雇用者数は同▲1.3万人と前月（同▲1.9万人）から減少ペースが縮小するなど雇用を巡るミスマッチも縮小している様子がうかがえる。

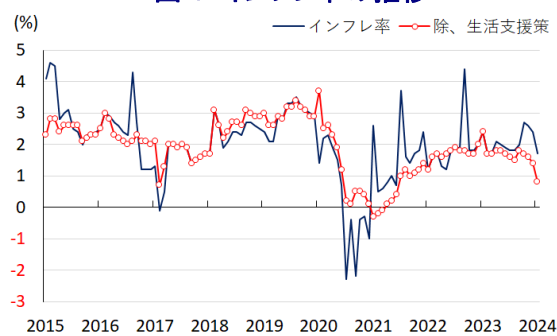
22日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+1.7%となり、前月（同+2.4%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.09%と前月（同+0.09%）から2ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる一方、食料品価格は上昇の動きを強めるなど生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、香港においては2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでは1月は前年同月比+0.8%と前月（同+1.4%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.09%と前月（同+0.09%）から5ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストが下振れして幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、経済活動の正常化が進んでいるにも拘らずサービス物価も下振れするなど、インフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

図3 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。